

## 心を揺さぶる

湯浅町立湯浅中学校 3年 嘉成菜月

マニュアルを超えた親切が、人の心を揺さぶり、未来を創る力を宿してくれる。以前、身をもってそれを学ばせてくれた1つの出来事があった。その経験は私にとって、親切の真の価値を見出すきっかけとなったものであり、私の将来の夢を形作ってくれたものでもある。

日常生活の中で親切に触れる瞬間。きっとこれは誰にでも、多かれ少なかれある。親切には人の心を大きく揺さぶる特別な力がある。その力こそが、人と人とをより深くつなげ、未来を輝かせるカギとなる。

私は以前、離れて暮らす姉に会うため、一人で遠くへ旅に出た。その帰り道の飛行機での話だ。楽しい時間を過ごした後の別れの寂しさと、一人で長い帰路につく不安が入り交じり、心の中では暗い大きな雲が広がっていた。姉と別れた瞬間から涙が止まらず、搭乗後もその状態は変わらなかった。機内で大粒の涙をこぼし続けた私に気づいてくれたのが、客室乗務員の女性である。彼女はそっと私に近づいて、小さな声で「どうしたの？」と声をかけてくれた。その一言だけでも私の心は少し軽くなった。しかし、彼女の行動はそれだけにとどまらなかった。隣の席に座り、私の話を時間が許す限り聞いてくれた。そして、降りる間際にアメとメッセージを書いたポストカードを微笑みながら渡してくれた。彼女のおかげで、不安と寂しさで押しつぶされそうだった心が軽くなり、目の前の景色がパッと明るくなった。

この出来事は、私にとってただの「親切」をはるかに超えるものだった。彼女の行動は、明らかに業務のマニュアルを超えた、相手の気持ちに寄り添った心あふれる「親切」だった。その時私は初めて「親切がもつ力」というものに触れられた気がする。彼女の親切が、私の人生においてどれほどの大きな意味を持つようになったかを、ここで全て語るのは決して容易ではない。ただ、この出来事は今もなお鮮明に、そして脈を打つように、私の心に深く刻みこまれている。

それ以来、私は客室乗務員という職業に憧れをもち始め、今では自分の将来の夢となった。もしかしたら彼女にとっては何気ない1コマだったのかもしれない。しかし、彼女の行動は、確かに私の人生に新たな道を示してくれた。

これをきっかけに、私は人の親切について深く考えてみた。親切とは一体何なのだろう。それは、相手の立場に立ち、寄り添い、相手を思った上で行動を起こすことだと思う。あの時の彼女にとってはごく自然な行動だったのかもしれない。しかし、私の視点では、あ那时的彼女の行動はマニュアルを超えた親切だった。こうやって、決められたことを超えていく心意気をもつことで、人の心に染みこんでいくような、そういった優しさや思いやりの心が生まれるのではないだろうか。私がそうだったように、マニュアルを超える親切には、人を、社会を、世界を変えるきっかけと可能性が隠されているのかもしれない。

私にとって、彼女の親切はまさに心の深いところにはっきりと残るものだった。その経験が無ければ、人の心に寄り添う親切の形と、その可能性についてここまで考えることはなかつただろう。私は今回のことで、人の小さな行動が、ちょっとした心が、誰かの人生に彩りを与えることを、身をもって学んだ。

私は今でも思い出す。あの彼女の寄り添ってくれた声を、柔らかい表情を。マニュアルを超えた親切は、私にとってこんなにも偉大なものに膨れ上がっていくとは思もしなかつた。今ではそれが、私の人生の道しるべとなり、今度は私が人に与えたいと思えるものになった。

まずは、日々の生活の中で、普通のこと、決められたことを超える親切を人に向けていきたい。その小さな行動1つが、目の前の人を温めることにつながるかもしれない。また、もしかしたら誰かの、あるいは、もっと大きなものを明るく変えていける原動力になるかもしれない。その思いやりの輪が、彼女や私だけでなくもっと広がっていけば、優しさと輝きに満ちた世界が創りあげられていく。私はそう信じている。